
第 2 8 4 号

2020年3月18日

日 本 気 象 学 会

関 西 支 部 ニ ュ ー ス

- 2019年度の例会報告
- 第13回気象サイエンスカフェ in 関西
- メールアドレス登録のお願い
- 住所変更届のお願い

〒 540-0008

大阪府中央区大手前4丁目 1-76

大阪合同庁舎第4号館

大阪管区气象台内

日本気象学会関西支部

振替 00980-5-18318

TEL (06) 6949-6308

FAX (06) 6944-2121

ホームページ：

<http://kansai.metsoc.jp/>

E-mail：

kansai-info@metsoc.jp

(注：メールアドレスはスパム対策のため全角で記しています。メール送信の際は半角で入力してください。)

○ 2019年度の例会報告

〈第1回〉四国地区

第1回例会が2019年12月6日(金)と翌7日(土)の2日間にわたり、香川大学幸町北キャンパス研究交流棟6階第一講義室にて開催されました。

例年通り大阪管区气象台四国地区気象研究会との共催で、とても充実したプログラムとなりました。气象台関係者、大学関係者など、35名ほどの参加があり、四国地区理事である高松地方気象台長の開会挨拶により始まりました。

例会は5つのセッションで構成され、大阪管区气象台気象研究会から7件、気象学会から10件の計17件の研究発表と、特別講演が行われました。

第1セッション(座長は松下氏(高松地方气象台))は高知大学、高知工科大学、高知地方气象台、高松地方气象台から、四国周辺で発生する豪雨に関する事例解析や、客観解析のダウンスケーリングの再現性について4件の報告がありました。

第2セッション(座長は寺尾氏(香川大学))は高松地方气象台、松山地方气象台、徳島地方气象台、高知大学、香川大学から、大雨をもたらす擾乱や、竜巻、降雹の特徴

に加え、変化を伴う極地風や紀伊水道の海上における霧の出現特性について5件の報告がありました。

その後、特別講演として、国立環境研究所地球環境研究センターの塩竈秀夫室長より「地球温暖化のこれまでとこれから」と題して、地球温暖化に伴う気候変動に関する最先端の研究や、気候変動の緩和策と適応策について、解りやすく解説をしていただきました。特に、パリ協定の2°C、1.5°C目標の達成の困難性や重要性について明らかにしていただきました。

例会1日目終了後の懇親会では、香川大学内の生協カフェテリアにおいて、气象台、大学関係者と例会の研究発表等を話題に楽しいひとときを過ごすことができました。

第3セッション（座長は春海氏（高松地方气象台））は松山地方气象台、香川大学、高知大学、高知工科大学から、やまじ風の特徴やその予測に関する研究、四国の降水特性や気温の長期変化について、4件の報告がありました。

最後の第4セッション（座長は佐々氏（高知大学））は松山地方气象台、香川大学、高知大学から、天草地方の18-19世紀の日記による気候復元、インドアッサム地方の降水日変化、モンスーン大循環の特徴、気候変動影響評価の文献調査など、広い観点から4件の報告がありました。

最後に、特別講演をお引き受け頂いた塩竈秀夫室長と、会場の手配や準備をしていただいた香川大学、高松地方气象台、関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。



四国地区例会の発表風景

（四国地区理事：寺尾 徹）

〈第2回〉中国地区

第2回例会は、2019年12月21日（土）に岡山大学環境理工学部において開催されました。本例会への出席者は27名で、19件の一般講演に加えて特別講演が行われました。

一般講演は、3つのセッション（テーマは1：降水・霧・雪、2：境界層・地表面、3：暑熱・作物・文化）に分かれて発表が行われました。セッション1では、梅雨期から夏季へ向けての強雨、豪雨、大雪の解析事例、盆地霧の発生・消散の機構、雲による融雪効果、上空の渦位が地上気象へ与える影響についての発表がなされました。セッション2では、地域的な大気汚染、降雪場、ヒートアイランドの事例解析、地表面蒸発の観測とモデル計算、ドローンによる地表面解析についての話題提供がありました。セッ

ション3では、暑熱環境が人間健康や農業に与える影響、温暖化が生物季節の関係、日欧の季節感の違いが音楽文化の違いへ与える影響について発表されました。

特別講演は「大気陸面データ同化による局地循環性降水の予測精度向上に向けて」という演題で岡山大学大学院環境生命科学研究科の辻本久美子助教より、カンボジアにおけるモンスーン期の降水事例について、現地観測、衛星データ、モデル計算による複合的な解析結果をご紹介くださいました。とくに、高層データのデータ同化の有無によって、降水域が生じる場所が山岳部から平野部に変化するという興味深い事例を紹介くださいました。

最後になりましたが、進行にあたり座長をお引き受け頂きました鳥取環境大・重田先生、岡山理科大・大橋先生、岡山大・野沢先生には深くお礼申し上げます。



中国地区例会の発表風景

(中国地区理事：岩田 徹)

〈第3回〉近畿地区

第3回例会は、大阪管区気象台近畿地区気象研究会との共催で、2019年12月22日(日)～23日(月)に開催されました。

1日目は、エル・おおさか5階研修室2で開催されました。はじめに森隆志日本気象学会関西支部長から開会の挨拶、続いて気象研究所全球大気海洋研究部第五研究室の高野洋雄室長による特別講演、支部会員による一般講演の順で行われました。

特別講演では、「台風による高潮と高浪について—海洋気象の現象と災害—」と題して、約1時間の講演をいただきました。前半は高潮と波浪の比較やそれぞれの発生メカニズムなどの基礎的な話題、後半は近畿地方における高潮と波浪に関して、平成30年台風第21号の際に観測された記録的な高潮と波浪を題材として解説されました。

一般講演では、4題の研究発表があり、海上における風速の長期変動解析、日本における降水量と気温の相関、近畿地方を通過した台風の特徴など多岐にわたるものとなりました。

2日目は、大阪管区気象台大会議室に場所を移し、近畿地方の各気象台職員による9題の講演が行われました。

参加人数は、1日目は気象台職員19名を含む24名、2日目は気象台職員約30名となりました(役員・スタッフを除く)。また、研究発表数が4題と例年より少なくなったことは少し残念であり、来年度は若手研究者を中心とした研究発表の奨励、ジュニアセッションの開催など研究発表数を増やすとともに、例会と併せた講演会の企画や発表プ

プログラムを工夫するなどし、活気ある例会開催に努めますので、多くの方のご参加を是非よろしく願いいたします。

最後に、事前の準備や調整、当日の運営にご協力いただいた大阪管区気象台職員、日本気象学会関西支部の関係者の皆様方、座長をお引き受けいただいた先生方、その他例会の運営にご支援、ご協力をいただいた皆様に心よりお礼申し上げます。



特別講演の風景



近畿地区例会の発表風景

(幹事：溝本 崇)

○第13回気象サイエンスカフェ in 関西

関西支部は毎年、一般社団法人 日本気象予報士会関西支部とサイエンスカフェを共催しています。今年は通算第53回気象予報士試験の翌週末となる2月1日(土)昼下がり、いつもの大阪心斎橋の英國屋にて「気象予報士試験に合格したいっ!! -興味本位・これからチャレンジ大歓迎、難所と攻略を一緒に考えてみませんか-」と題しての開催となりました。

話題提供者は現役の大学3年生・引地 慶くん。関西支部が毎夏実施している「気象関係合同進路説明会」に3年前来場したのをきっかけに気象予報士資格受験を開始し、先週末で通算5回目の挑戦を終えたばかりです。

この企画、元気で華やかな若年層を呼び集めて日本気象学会・日本気象予報士会に紐づけようとする狙いで設定したのですが、なんと過去に例のない申し込み数の伸び悩みのもと、例年ほぼ埋まる定員20名に対して参加者7名での開催となりました。

このうち気象台職員1名と気象予報士1名を除いて、本企画のターゲット客層としては学生さん4名と御年輩の男性が1名の合計5名。既にラジオ出演経験のある気象キャスター志望の学生さんを始め、少人数とはいえ気象予報士資格の取得を真剣に考えている方ばかりです。

全速力タイムアタック試験たる実情とそれにまつわる回答攻略の秘訣について聴講するのも、その後みんな一緒に考えながら抜粋した過去問を解いていくのも、とても興味深そうで熱心で、むしろコミュニケーションが行きわたるにはちょうど良い人数だったように思います。

参加者全員に大満足いただいた後、さすが今の時代の学生さんが4人集まってきただけあって、引地くんを囲んで早速スマホを寄せ合い連絡先を交換しながら会話が盛り上がり、終了時刻を30分過ぎても帰らない帰らない(笑)

今度は我々役員が、彼等を確実に気象学会員・気象予報士会員に引き込んで、世代交代の地盤を固めて行かねばなりません。会の従来イメージにとらわれず、今の時代の若年層文化に響く集客方法や企画内容を模索し工夫することが大切だと確かめられた第13回気象サイエンスカフェでした。



サイエンスカフェの風景



終了後、情報交換する参加者
(常任理事：難波 良彰)

○ メールアドレス登録のお願い

関西支部ニュースは年3回（5月、10月、3月）発行予定で、2006年度から関西支部ホームページに掲載して閲覧していただいています。支部ニュース発行、総会・年会・例会などの開催通知等は支部全会員にE-mailで配信しています。まだ登録されていない会員の方は、会員氏名・番号、E-mailアドレスを関西支部事務局まで、ご登録いただくよう重ねてお願いします（関西支部の連絡先などは最初のページをご覧ください）。

○ 住所変更届のお願い

機関誌「天気」などの発送は学会本部事務局の会員名簿に基づいて行っています。学会事務局では会員の皆様の異動状況を早めに把握するように努めておりますが、把握漏れがあった場合には旧勤務地（旧住所）に発送され、旧勤務地（旧住所）の方に転送等の御迷惑をおかけすることになります。会員の皆様におかれましては、転勤等により勤務地（住所）が変わった場合、気象学会ホームページの会員登録情報の変更ページで申請いただくか、変更届を速やかに下記の学会本部事務局宛にご連絡いただきますようお願いいたします。

※ホームページ <https://www.metsoc.jp/membership/update>

※学会事務局 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内

TEL：03-3216-4403 FAX：03-3216-4401

住 所 等 の 変 更 届

・会員番号： No.

・氏名：

・旧勤務地（旧住所）：〒

・新勤務地（新住所）：〒